

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第5191164号

(P5191164)

(45) 発行日 平成25年4月24日 (2013. 4. 24)

(24) 登録日 平成25年2月8日 (2013. 2. 8)

(51) Int. Cl.

F 1

A 6 1 B 1/06 (2006. 01)

A 6 1 B 1/06

D

G 0 2 B 23/24 (2006. 01)

G 0 2 B 23/24

A

請求項の数 7 (全 20 頁)

(21) 出願番号	特願2007-123854 (P2007-123854)	(73) 特許権者	304050923
(22) 出願日	平成19年5月8日 (2007. 5. 8)		オリンパスメディカルシステムズ株式会社
(65) 公開番号	特開2008-278970 (P2008-278970A)		東京都渋谷区幡ヶ谷2丁目43番2号
(43) 公開日	平成20年11月20日 (2008. 11. 20)	(74) 代理人	100088683
審査請求日	平成22年4月27日 (2010. 4. 27)		弁理士 中村 誠
		(74) 代理人	100108855
			弁理士 蔵田 昌俊
		(74) 代理人	100075672
			弁理士 峰 隆司
		(74) 代理人	100109830
			弁理士 福原 淑弘
		(74) 代理人	100084618
			弁理士 村松 貞男
		(74) 代理人	100092196
			弁理士 橋本 良郎

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 医療装置

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

電気端子部を備えた第1のコネクタ部と、前記第1のコネクタ部 の前記電気端子部 に接続される電気接点部を備えた第2のコネクタ部と、前記第1のコネクタ部に設けられ、前記第1のコネクタ部と前記第2のコネクタ部とが接続された際に、前記電気端子部と前記電気接点部との接続点よりも前記第1のコネクタ部の先端側にあり、前記電気接点部上の水分を接続方向と反対の方向に除去する除去手段と、前記第1のコネクタ部に設けられ、前記第1のコネクタ部と前記第2のコネクタ部とが接続された際に、前記電気端子部と前記電気接点部との接続点よりも前記第1のコネクタ部の基端側にあり、前記除去手段による除去方向とは異なる方向からの水分の侵入を防止する防止手段と、を具備し、前記除去手段は、弾性部材であり、前記除去手段は、前記第2のコネクタ部の接続動作に伴って前記第2のコネクタ部の外表面を摺接する摺接部を備えていることを特徴とする医療装置。

【請求項 2】

前記防止手段は、弾性部材であることを特徴とする請求項1に記載の医療装置。

【請求項 3】

10

20

前記除去手段及び前記防止手段は、前記電気接点部が設けられる前記第2のコネクタ部の外周面に摺接する内周面を有する環状であることを特徴とする請求項1に記載の医療装置。

【請求項4】

前記除去手段及び前記防止手段は、前記電気接点部が設けられる前記第2のコネクタ部の内周面に摺接する外周面を有する環状であることを特徴とする請求項1に記載の医療装置。

【請求項5】

前記除去手段は、重力方向に水分を除去するとともに、前記防止手段は、重力方向に垂れる水分を防止するよう、重力方向に沿って前記防止手段、前記除去手段の順に配置したことを特徴とする請求項1に記載の医療装置。

10

【請求項6】

前記第1のコネクタ部は、前記電気接点部に接続される信号処理手段を有する信号処理装置であって、前記第2のコネクタ部は、前記信号処理装置に接続される内視鏡に設けられたことを特徴とする請求項1に記載の医療装置。

【請求項7】

前記第1のコネクタ部は、内視鏡の操作部を構成するパワーユニットに設けられ、前記第2のコネクタ部は、前記パワーユニットに着脱可能に接続される挿入部側本体に設けられたことを特徴とする請求項1に記載の医療装置。

【発明の詳細な説明】

20

【技術分野】

【0001】

本発明は、例えば内視鏡の操作部基端側に位置する内視鏡本体と、この内視鏡本体が接続されるパワーユニットとからなる医療装置に関する。

【背景技術】

【0002】

医療器具としての内視鏡は、体腔内に挿入する挿入部の基端部に本体部が設けられ、本体部には光源装置等に接続されるユニバーサルコードが接続されている。挿入部には、照明光学系、観察光学系と接続される信号線、湾曲操作ワイヤ、送気・送水あるいは吸引管路等の内蔵物が挿通されている。さらに本体部には、前記照明光学系、信号線及び各種管路の接続部が設けられているとともに、湾曲部を湾曲操作する湾曲操作部、送気・送水及び吸引等の各種操作ボタンが設けられている。

30

【0003】

また、操作部を、挿入部側本体と、この挿入部側本体が着脱自在に接続されるパワーユニットとから構成したものも知られている。前記パワーユニットには、電動モータによって駆動される湾曲駆動機構の駆動側カップリングを備え、挿入部側本体には電動アングル機構の従動側カップリングを備え、挿入部側本体をパワーユニットに接続すると、湾曲駆動機構の駆動側カップリングと電動アングル機構の従動側カップリングとが連結されるようになっている。

【0004】

40

さらに、パワーユニットには、ユニバーサルコードを介してビデオプロセッサ、コントロールボックス等の周辺機器と電氣的に接続される信号処理回路が内蔵され、この信号処理回路には電気接点部が設けられている。挿入部側本体には内視鏡の先端構成部に設けられた固体撮像素子等と電氣的に接続される電気接点部が設けられ、挿入部側本体をパワーユニットに接続すると、電気接点部同士が接触して電氣的に接続され、電気信号の授受が行えるようになっている。

【0005】

一方、医療用の内視鏡は、使用後に内視鏡に内蔵された管路を含めて外表面を洗滌及び消毒するが、前述のように電気接点部が露出している内視鏡においては、再使用の際に洗浄によって付着した水分を完全に除去し、電気接点部が水分で短絡されるのを防止する必

50

要がある。

【0006】

そこで、従来においては、内視鏡装置のコネクタを周辺機器に接続する際に、コネクタに付着した水分を除去する手段として、電気接点を有するプラグ側にスポンジを設け、プラグが端子を有するソケットに押し込まれて接続される際に、水分がプラグに入り込んでもスポンジによって水分が吸収されるようにしたものが知られている（例えば、特許文献1参照。）。

【0007】

同様に、ソケット側に電極面とシリコンゴムからなる拭き取り部材を設け、プラグ側に電極面を設け、プラグがソケットに接続される際に、電極面に付着された水分が拭き取り部材によって拭き取られるようにしたものも知られている（例えば、特許文献2参照。）。

10

【特許文献1】特開平6-133919号公報

【特許文献2】特開2001-224556号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0008】

しかしながら、特許文献1、2に開示された医療装置における水分除去手段は、プラグとソケットの接続時に、電極面に付着している水分を吸水性部材で吸水あるいは拭き取る構成である。従って、吸水部材が水分を十分に吸収してしまうと、給水能力がなくなり、また、拭き取る構成のものは、水分が重力によって流れて重力方向に電極面が位置していると、電極面が再び濡れる虞もある。

20

【0009】

本発明は、前記事情に着目してなされたもので、その目的とするところは、電気接点部に水分が付着していても、コネクタ部を接続する過程で水分を除去し、除去水分や除去できずにコネクタ部に残留した水分が電気接点部に付着する虞はなく、信頼性の向上を図ることができる医療装置を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0010】

本発明の一実施形態は、電気端子部を備えた第1のコネクタ部と、前記第1のコネクタ部の前記電気端子部に接続される電気接点を備えた第2のコネクタ部と、前記第1のコネクタ部に設けられ、前記第1のコネクタ部と前記第2のコネクタ部とが接続された際に、前記電気端子部と前記電気接点部との接続点よりも前記第1のコネクタ部の先端側にあり、前記電気接点部上の水分を接続方向と反対の方向に除去する除去手段と、前記第1のコネクタ部に設けられ、前記第1のコネクタ部と前記第2のコネクタ部とが接続された際に、前記電気端子部と前記電気接点部との接続点よりも前記第1のコネクタ部の基端側にあり、前記除去手段による除去方向とは異なる方向からの水分の侵入を防止する防止手段とを具備し、前記除去手段は、弾性部材であり、前記除去手段は、前記第2のコネクタ部の接続動作に伴って前記第2のコネクタ部の外表面を摺接する摺接部を備えていることを特徴とする医療装置である。

30

40

【0012】

前記防止手段は、好ましくは、弾性部材であることを特徴とする。

【0013】

前記除去手段及び前記防止手段は、好ましくは、前記電気接点部が設けられる前記第2のコネクタ部の外周面に摺接する内周面を有する環状であることを特徴とする。

【0014】

前記除去手段及び前記防止手段は、好ましくは、前記電気接点部が設けられる前記第2のコネクタ部の内周面に摺接する外周面を有する環状であることを特徴とする。

【0015】

前記除去手段は、好ましくは、重力方向に水分を除去するとともに、前記防止手段は、

50

重力方向に垂れる水分を防止するよう、重力方向に沿って前記防止手段、前記除去手段の順に配置したことを特徴とする。

【0016】

前記第1のコネクタ部は、好ましくは、前記電気接点部に接続される信号処理手段を有する信号処理装置であって、前記第2のコネクタ部は、前記信号処理装置に接続される内視鏡に設けられたことを特徴とする。

【0017】

前記第1のコネクタ部は、好ましくは、内視鏡の操作部を構成するパワーユニットに設けられ、前記第2のコネクタ部は、前記パワーユニットに着脱可能に接続される挿入部側本体に設けられたことを特徴とする。

【発明の効果】

【0019】

本発明によれば、水分を除去する除去手段と、この除去手段による除去方向とは異なる方向からの水分の侵入を防止する防止手段を設けることにより、電気接点部に水分が付着していても、コネクタ部を接続する過程で水分を除去し、その水分が再び電気接点部に付着する虞はなく、信頼性の向上を図ることができるという効果がある。

【発明を実施するための最良の形態】

【0020】

以下、本発明の各実施の形態を図面に基づいて説明する。

【0021】

図1～図8は第1の実施形態を示す。図1は医療装置10の全体構成を示し、医療装置10を手術用ベッド11の脇に設置した状態の斜視図である。キャスター12を備えた支持台13には光源装置14、ビデオプロセッサ15及びコントロールボックス16等が搭載されている。支持台13には支持機構17を構成する支柱18が垂直方向に立設され、この支柱18の上端部には水平面内で回動自在なアーム19を介して医療器具保持部としての内視鏡保持部20が設けられている。

【0022】

内視鏡保持部20には医療器具としての内視鏡21が保持されている。内視鏡21は、本体部22と、本体部22に接続された挿入部23及びユニバーサルコード24から構成されている。挿入部23には湾曲部25及び先端構成部26が設けられている。ユニバーサルコード24にはコネクタ27が設けられ、このコネクタ27は光源装置14に接続されている。

【0023】

内視鏡21の先端構成部26には体腔内を照明する照明光学系、体腔内を観察する観察光学系を備えている。照明光学系は光源装置14からの照明光をユニバーサルコード24、挿入部23を介して先端構成部26の前面から出射する。観察光学系は、先端構成部26に設けられた固体撮像素子等の撮像ユニットからの映像信号をビデオプロセッサ15が受けて所定の信号処理を施し、このビデオプロセッサ15から出力される映像信号はコントロールパネル28に伝送される。コントロールパネル28には所定の内視鏡画像がその表示部29に表示する他、この表示部29の表示面上にタッチパネル式などの操作部が設けられている。このため、術者は、このコントロールパネル28の操作部から各種の操作指示を入力することができる。

【0024】

さらに、コントロールボックス16は、内視鏡21を観察や処置に使用する際の送気や送水を行うための電磁弁ユニット（図示しない）を動作させるためのものである。この電磁弁ユニットは、挿入部23の内部に設けられる送気送水管路や吸引管路等を介して送気送水および吸引動作の制御を行う。コントロールボックス16のシステムコントローラは、光源装置14およびビデオプロセッサ15に電氣的に接続されている。

【0025】

なお、図1に示す、コントロールボックス16の電磁弁ユニットには、流体制御カセッ

10

20

30

40

50

ト 30 が着脱可能に装着されている。この流体制御カセット 30 は、送気、送水、前方送水に関する弁体を有する流量調整機構を備えている。電磁弁ユニットは、流体制御カセット 30 の流量調整機構を駆動する。

【0026】

また、コントロールボックス 16 には、内視鏡 21 に対して送気、送水及び前方送水を行う 3 本のチューブ 33a, 33b, 33c の一端が接続され、他端は内視鏡 21 の本体部 22 に接続されている。これらチューブ 33a, 33b, 33c は中空の柔軟な樹脂材で形成されている。前記ユニバーサルコード 24 にはライトガイドファイバーや信号線が内挿されている。

【0027】

支持機構 17 のアーム 19 には複数本の支持ロッド 34a, 34b が立設され、これら支持ロッド 34a, 34b にはチューブ 33a, 33b, 33c 及びユニバーサルコード 24 の中途部を支持するリテーナ 35a, 35b が設けられている。

【0028】

図 2 は内視鏡 21 の本体部 22 及び挿入部 23 の内部構造を概略的に示す構成図である。コントロールボックス 16 はチューブ 33a, 33b, 33c を介して本体部 22 に接続され、本体部 22 から挿入部 23 の先端構成部 26 に連通されている。このため、コントロールボックス 16 の電磁弁ユニットが駆動されて流体制御カセット 30 から送気送水動作が行なわれると、チューブ 33a, 33b を通して先端構成部 26 から送気送水を行うことができる。

【0029】

さらに、内視鏡 21 の本体部 22 には、湾曲操作指示に応じて制御される電動モータを備えた湾曲駆動機構 36 が内蔵され、湾曲部 25 を上下左右に湾曲動作するように構成されている。内視鏡 21 には光源装置 14 から供給される照明光束を光伝送する照明光学系を構成する後述するライトガイド 46 が挿通され、先端構成部 26 から出射される。先端構成部 26 には固体撮像素子からなる撮像ユニット 37 が設けられている。ビデオプロセッサ 15 には撮像ユニット 37 からの映像信号を伝達する信号ケーブル 38、映像基板 39、フレキシブル基板 40 及び信号ケーブル 41 が接続されている。この信号ケーブル 41 は本体部 22 及びユニバーサルコード 24 の内部を挿通してビデオプロセッサ 15 の所定の端子に接続されている。

【0030】

図 3 は内視鏡 21 の本体部 22 を示す斜視図である。挿入部 23 の基端部に設けられた本体部 22 は、第 2 のコネクタ部としての挿入部側本体 50 と、この挿入部側本体 50 に対して着脱可能で、挿入部側本体 50 に動力、流体、光、電力、信号を供給するための供給源側本体部としての第 1 のコネクタ部、例えばパワーユニット 51 とから構成されている。まず、挿入部側本体 50 及びパワーユニット 51 の外部構成について説明すると、挿入部側本体 50 の先端部における側部には突出部 52 が設けられ、この突出部 52 には挿入部側本体 50 の軸方向に対して外側に傾斜する鉗子挿入口 45 が設けられている。

【0031】

挿入部側本体 50 の中間部にはその軸方向に対して直角な取付け面 50a が設けられ、取付け面 50a には流体接続コネクタを構成する送気口金 53a、送水口金 53b、前方送水口金 53c 及び漏水検知口金 54 がその開口を基端側に向けて配置されている。すなわち、送気口金 53a、送水口金 53b、前方送水口金 53c は、挿入部側本体 50 の基端側、つまり前記鉗子挿入口 45 と離間した位置に配置されている。鉗子挿入口 45 は、鉗子、カテーテル等の処置具が挿脱されるため、不潔域となる場合があるが、送気口金 53a、送水口金 53b、前方送水口金 53c を鉗子挿入口 45 から離間させることにより感染を防止できる。

【0032】

また、内視鏡 21 を使用後に洗浄する内視鏡自動洗浄装置では、漏水検知、各管路への送気・送水及び送気口金 53a、送水口金 53b、前方送水口金 53c を介して各管路へ

10

20

30

40

50

のブラシの挿通の3つの機能を自動で行うことが求められている。そこで、送気口金53a、送水口金53b、前方送水口金53c及び漏水検知口金54を横一列に配置し、しかも漏水検知口金54の開口を送気口金53a、送水口金53b、前方送水口金53cと平行にすることにより、内視鏡自動洗浄装置側としては、1方向の制御のみで上記3種類の機能を果たすことができる。しかも漏水検知口金54を最も外側に配置したのは、漏水検知を手動で行う際に他の口金が邪魔にならないようにすることを考慮したものである。

【0033】

さらに、挿入部側本体50の基端部には角筒部55及びこの角筒部55の後端に円筒部56が一体に設けられている。角筒部55の外側部には前記湾曲駆動機構36と連動する従動側部材としての従動側カップリング57が設けられている。円筒部56の後端面には前記ライトガイド46と接続するライトガイドコネクタ58が設けられている。さらに、円筒部56の後端部は電気絶縁材料によって形成され、その外周面には周方向に電気信号用コネクタとしての多数の電気接点部59が配置されている。

10

【0034】

図4～図7は挿入部側本体50及びパワーユニット51の内部構造を示し、図4は挿入部側本体50とパワーユニット51との非接続状態の縦断側面図、図5は同接続状態の縦断側面図、図6は挿入部側本体50とパワーユニット51との非接続状態を示し、パワーユニット51のみを断面した側面図、図7は同接続状態を示し、パワーユニット51のみを断面した側面図である。

【0035】

20

まず、挿入部側本体50側について説明すると、挿入部側本体50の内部には角筒部55の本体部を構成するアルミニウム等の剛性を有する金属部材からなるシャーシ61が設けられている。シャーシ61の後端部は開口され、この開口を囲む端縁部には嵌合段部62が形成されている。

【0036】

このシャーシ61の後端部には円筒部56の一部を構成する円筒状の嵌合部材63が設けられている。嵌合部材63はアルミニウム等の剛性を有する金属部材からなり、基端部にはフランジ部64を有する閉塞部65が設けられ、先端部には開口した小径部66が設けられている。嵌合部材63のフランジ部64にはシャーシ61の嵌合段部62に嵌合する環状溝67が設けられ、この嵌合段部62と環状溝67とはOリング68によって水密にシールされている。

30

【0037】

嵌合部材63には円筒部56の一部を構成する円筒状の挿入側コネクタ本体69が設けられている。挿入側コネクタ本体69は電気絶縁材料によって形成され、基端部の開口はOリング70を介して小径部66に水密に嵌合されている。挿入側コネクタ本体69の先端部は肉厚の隔壁によって閉塞され、この隔壁には挿入側コネクタ本体69の軸心と同心的で小径な突出筒部71が一体に設けられている。挿入側コネクタ本体69の外周面には前記電気接点部59が配置されており、各電気接点部59のリード部59aは挿入側コネクタ本体69の隔壁を貫通して挿入側コネクタ本体69の内部まで延長している。

【0038】

40

挿入側コネクタ本体69の内部には弾性部材のパッキン72がパッキンつぶし部材73によって圧接状態に固定され、各電気接点部59のリード部59aはパッキン72を貫通して水密に保たれている。さらに、パッキンつぶし部材73にはリード部59aと接続されたフレキシブルコネクタ74が固定され、このフレキシブルコネクタ74にはコネクタ75が接続されている。フレキシブルコネクタ74は、図8(a)に示すように、環状基部74aのリード部59aと接続される接続孔74bが設けられている。さらに、環状基部74aの外周部には放射状に突出する舌片状の複数の端子片74cが一体に設けられている。そして、これら端子片74cを図8(b)に示すように、同方向に折曲して起立させたものであり、各端子片74c上にコネクタ75が設置されている。

【0039】

50

また、図４～図７に示すように、前記嵌合部材６３の閉塞部６５における中心部には円筒部５６の後端部方向に突出する筒部７６が一体に設けられ、この内周面にはねじ部７６aが形成されている。ねじ部７６aにはパイプからなるライトガイド固定部材７７の基端部がねじ込み固定され、ライトガイド固定部材７７の先端部は挿入側コネクタ本体６９の突出筒部７１の内部まで突出している。ライトガイド固定部材７７の内部には前記ライトガイド４６が挿入されている。

【００４０】

ライトガイド４６の先端部にはパイプ状のライトガイド嵌合部材７８が嵌合され、このライトガイド嵌合部材７８の基端部はライトガイド固定部材７７の内周面に嵌合されている。ライトガイド嵌合部材７８の先端部にはレンズ枠７９が固定され、レンズ枠７９には光学レンズ８０が装着されている。レンズ枠７９の外周面には電気コネクタ固定部材８１が螺合されているとともに、両者間はＯリング８２で水密にシールされている。電気コネクタ固定部材８１の外周面にもＯリング８３が装着され、このＯリング８３によって挿入側コネクタ本体６９の突出筒部７１との間が水密にシールされている。さらに、電気コネクタ固定部材８１の先端部にはフランジ部８１aが設けられ、このフランジ部８１aと突出筒部７１との間には金属からなる電気コネクタ保護部材８４が介在されている。

【００４１】

従って、電気接点部５９が設けられた挿入側コネクタ本体６９とレンズ枠７９及び電気コネクタ固定部材８１はＯリング８２、８３によって水密にシールされ、挿入側コネクタ本体６９は嵌合部材６３に対してＯリング７０によって水密にシールされている。

【００４２】

次に、前記パワーユニット５１側について説明すると、パワーユニット５１の本体部を構成するアルミニウム等の剛性を有する金属部材からなるシャーシ８５が設けられている。シャーシ８５は挿入部側本体５０の嵌合部材６３が挿入される円筒状の空洞部８６が設けられている。空洞部８６の内周面には嵌合受け部８７が設けられ、この嵌合受け部８７には金属弾性部材からなる複数のフィンガ８８が周方向に配設されている。

【００４３】

シャーシ８５の先端部にはフランジ部８９が設けられ、このフランジ部８９には周壁部９０とこの周壁部９０に対して固定された抑え部材９１によって環状溝９２が形成されている。シャーシ８５の先端側には円筒状のケーシング９３が設けられている。ケーシング９３の基端部にはフランジ部９４が設けられ、このフランジ部９４はシャーシ８５の環状溝９２に嵌合されている。環状溝９２の内径はケーシング９３のフランジ部９４の外径より大きく形成され、環状溝９２に対してケーシング９３が径方向に移動自在であり、フランジ部９４と抑え部材９１との間にはＯリング９５が介在され、水密にシールされている。

【００４４】

ケーシング９３の内部には円筒状の端子固定部材９６が設けられている。端子固定部材９６の内周面には電気接点部５９に対応して複数の電気端子部９７が配置され、これら電気端子部９７は端子固定部材９６の内周面から内側に突出している。端子固定部材９６の端面には弾性部材のパッキン９８がパッキンつぶし部材９９によって圧接状態に固定され、各電気端子部９７のリード部９７aはパッキン９８を貫通して水密に保たれている。さらに、パッキンつぶし部材９９はケーシング９３に対してねじ込み固定された端子固定リング１００によって抑え固定されている。

【００４５】

端子固定部材９６の基端側には電気端子部９７と隣接して水分を除去する除去手段としての第１のワイパ１０１と、端子固定部材９６の先端側には電気端子部９７と隣接して第１のワイパ１０１による除去方向とは異なる方向からの水分の侵入を防止する防止手段としての第２のワイパ１０２が設けられている。

【００４６】

第１のワイパ１０１は、ケーシング９３の内周面に沿って円環状のゴム部材によって形

10

20

30

40

50

成され、断面形状で示すように基部にくびれ部１０１ａが形成され、先端部に円弧状の摺接部１０１ｂが形成されている。そして、第１のワイパ１０１は摺接部１０１ｂの内径が前記挿入側コネクタ本体６９の外径より僅かに小径に形成され、パワーユニット５１の端子固定部材９６に対する挿入側コネクタ本体６９の挿脱に伴ってくびれ部１０１ａを支点として左右方向に折曲した状態で、摺接部１０１ｂが挿入側コネクタ本体６９の外周面と摺接するように形成されている。

【００４７】

第２のワイパ１０２も、ケーシング９３の内周面に沿って円環状のゴム部材によって形成され、断面形状で示すように基部１０２ａがワイパ固定リング１０３によって端子固定部材９６に固定され、先端部に内側に突出する摺接部１０２ｂが形成されている。そして、第２のワイパ１０２は摺接部１０２ｂの内径が前記挿入側コネクタ本体６９の外径より僅かに小径に形成され、パワーユニット５１の端子固定部材９６に対する挿入側コネクタ本体６９の挿脱に伴って摺接部１０２ｂが挿入側コネクタ本体６９の外周面と摺接するように形成されている。

【００４８】

このように、端子固定部材９６には電気端子部９７を挟んで第１のワイパ１０１と第２のワイパ１０２とが設けられ、パワーユニット５１の端子固定部材９６に対する挿入側コネクタ本体６９の挿脱に伴って端子固定部材９６の表面に付着している水分を第１のワイパ１０１によって除去できるようになっている。さらに、端子固定部材９６の先端側に付着している水分が重力によって電気接点部５９の方向に流れるのを第２のワイパ１０２によって阻止するように構成されている。

【００４９】

また、端子固定部材９６の先端部には円筒状のライトガイド固定基板１０４が固定されている。ライトガイド固定基板１０４の先端部にはフランジ部１０５が設けられ、このフランジ部１０５には周壁部１０６とこの周壁部１０６に対して固定された抑え部材１０７によって環状溝１０８が形成されている。ライトガイド固定基板１０４の先端側には円筒状のライトガイド固定部材１０９が設けられている。ライトガイド固定部材１０９の基端部にはフランジ部１１０が設けられ、このフランジ部１１０はライトガイド固定基板１０４の環状溝１０８に嵌合されている。環状溝１０８の内径はライトガイド固定部材１０９のフランジ部１１０の外径より大きく形成され、環状溝１０８に対してライトガイド固定部材１０９が径方向に移動自在であり、フランジ部１１０と抑え部材１０７との間にはＯリング１１１が介在され、水密にシールされている。

【００５０】

ライトガイド固定部材１０９の内部にはライトガイド嵌合部材１１２が収納され、このライトガイド嵌合部材１１２の外周面とライトガイド固定部材１０９の内周面との間にはＯリング１１３によってシールされている。ライトガイド固定部材１０９に対してライトガイド嵌合部材１１２は軸方向に移動自在であり、スプリング１１２ａによってライトガイド嵌合部材１１２は基端側に弾性的に付勢されている。このライトガイド嵌合部材１１２のライトガイド嵌合部材１１２の中心部には軸方向に貫通孔１１４が設けられ、この貫通孔１１４の内部にはライトガイド１１５が装着されている。ライトガイド１１５の端面には平板ガラスからなる光学レンズ１１６が密着状態で設けられている。光学レンズ１１６はライトガイド嵌合部材１１２に設けられた嵌合筒１１７に固定されたレンズ枠１１８に装着されている。

【００５１】

次に、パワーユニット５１の空洞部８６に対して挿入部側本体５０の挿入側コネクタ本体６９を挿入し、挿入部側本体５０とパワーユニット５１とを電氣的及び光学的に接続する作用について説明する。

【００５２】

挿入部側本体５０を把持して挿入側コネクタ本体６９を空洞部８６に挿入すると、挿入側コネクタ本体６９の外周面はフィンガ８８に接触するため、挿入側コネクタ本体６９は

空洞部 8 6 の中心部方向に弾性的に位置決めされる。挿入側コネクタ本体 6 9 が空洞部 8 6 に挿入されると、まず挿入側コネクタ本体 6 9 の外周面における先端部が第 1 のワイパ 1 0 1 の摺接部 1 0 1 b に接触する。

【0053】

挿入側コネクタ本体 6 9 を空洞部 8 6 に深く挿入すると、挿入側コネクタ本体 6 9 の外周面と第 1 のワイパ 1 0 1 の摺接部 1 0 1 b とが摺動し、第 1 のワイパ 1 0 1 のくびれ部 1 0 1 a を支点として空洞部 8 6 の奥部方向に折曲した状態になり、その摺接部 1 0 1 b が挿入側コネクタ本体 6 9 の外周面に摺接する。従って、挿入側コネクタ本体 6 9 の外周面に洗滌時に付着した水分が残っていても、水分は第 1 のワイパ 1 0 1 によって拭き取られる。挿入側コネクタ本体 6 9 の外周面には複数の電気接点部 5 9 が設けられ、この電気接点部 5 9 の表面にも水分が付着していることがあるが、その水分も第 1 のワイパ 1 0 1 によって拭き取られる。

10

【0054】

挿入側コネクタ本体 6 9 を空洞部 8 6 にさらに深く挿入すると、電気接点部 5 9 と電気端子部 9 7 とが対向し、両者は接触して挿入部側本体 5 0 とパワーユニット 5 1 とが電氣的に導通状態となる。挿入側コネクタ本体 6 9 を空洞部 8 6 の最も奥部に挿入すると、挿入側コネクタ本体 6 9 の先端部における外周面が第 2 のワイパ 1 0 2 の摺接部 1 0 2 b に摺接し、摺接部 1 0 2 b は折曲されて挿入側コネクタ本体 6 9 の先端部における外周面に密着する。すなわち、挿入側コネクタ本体 6 9 の先端側の外周面と突出筒部 7 1 との間を第 2 のワイパ 1 0 2 が遮断した状態となる。従って、挿入側コネクタ本体 6 9 の先端側と突出筒部 7 1 との間の水分が付着していても、第 2 のワイパ 1 0 2 によって水分が電気接点部 5 9 の方向に流れることはない。つまり、内視鏡 2 1 の使用状態においては、挿入部側本体 5 0 が下側になる縦方向になって挿入側コネクタ本体 6 9 の先端側と突出筒部 7 1 との間の水分が重力によって挿入部側本体 5 0 の電気接点部 5 9 の方向に流れることがあるが、第 2 のワイパ 1 0 2 を設けているため、電気接点部 5 9 の方向に流れようとする水分を遮断できる。

20

【0055】

このようにして挿入側コネクタ本体 6 9 が空洞部 8 6 の最も奥部に挿入されると、挿入側コネクタ本体 6 9 のレンズ枠 7 9 がライトガイド嵌合部材 1 1 2 の嵌合筒 1 1 7 に嵌合し、光学レンズ 8 0 と光学レンズ 1 1 6 とが対向してパワーユニット 5 1 と挿入部側本体 5 0 とが光学的にも接続された状態となる。

30

【0056】

また、パワーユニット 5 1 側のシャーシ 8 5 の環状溝 9 2 に対してケーシング 9 3 のフランジ部 9 4 が径方向に移動自在であり、リング 9 5 によってシャーシ 8 5 に対してケーシング 9 3 のフランジ部 9 4 が弾性的に押圧されている。従って、ケーシング 9 3 が揺動自在に支持され、端子固定部材 9 6 は三次元的に揺動自在である。さらに、ライトガイド固定基板 1 0 4 の環状溝 1 0 8 にはライトガイド固定部材 1 0 9 のフランジ部 1 1 0 が径方向に移動自在であり、リング 1 1 1 によってライトガイド固定基板 1 0 4 に対してライトガイド固定部材 1 0 9 が弾性的に押圧されてライトガイド固定部材 1 0 9 は三次元的に揺動自在である。

40

【0057】

従って、挿入側コネクタ本体 6 9 を空洞部 8 6 に挿入する際に、挿入側コネクタ本体 6 9 の挿入先端側が径方向に揺動しても、挿入側コネクタ本体 6 9 の揺動に伴って端子固定部材 9 6 及びライトガイド固定部材 1 0 9 が三次元的に揺動して追従することになる。このため、挿入部側本体 5 0 を把持して挿入側コネクタ本体 6 9 を空洞部 8 6 に挿入する際に挿入側コネクタ本体 6 9 に挿入先端側が径方向に位置ずれしても引っ掛かり感がなく円滑に挿入できる。そして、電気接点部 5 9 を電気端子部 9 7 に接触させて電氣的に導通させ、レンズ枠 7 9 をライトガイド嵌合部材 1 1 2 の嵌合筒 1 1 7 に嵌合して確実に光学的に接続することができる。

【0058】

50

さらに、ライトガイド固定部材１０９に対してライトガイド嵌合部材１１２が嵌合され、ライトガイド嵌合部材１１２はスプリング１１２ａによってライトガイド固定基板１０４のフランジ部１０５に弾性的に押圧されている。従って、挿入側コネクタ本体６９のレンズ枠７９をライトガイド嵌合部材１１２の嵌合筒１１７に嵌合する際の挿入方向の衝撃力をスプリング１１２ａによって吸収することができると同時に光学レンズ８０と１１６とを密着することができる。

【００５９】

図９は第２の実施形態を示し、第１の実施形態と同一構成部分は同一番号を付して説明を省略する。図９は挿入部側本体１２０及びパワーユニット１２１の内部構造を示し、挿入部側本体１２０とパワーユニット１２１との非接続状態の縦断側面図である。

10

【００６０】

まず、挿入部側本体１２０側について説明すると、挿入部側本体１２０の内部にはアルミニウム等の剛性を有する金属部材からなるシャーシ１２２が設けられている。シャーシ１２２の後端部には電気コネクタ部材１２３と光学コネクタ部材１２４が隣り合って平行状態に設けられている。電気コネクタ部材１２３には第１の実施形態と同様に挿入側コネクタ本体６９が設けられ、この挿入側コネクタ本体６９には電気接点部５９が配置されている。

【００６１】

さらに、シャーシ１２２には後端部方向に突出する筒部１２５が設けられ、この筒部１２５には電気コネクタ固定支柱１２６がねじ込み固定されている。電気コネクタ固定支柱１２６は挿入側コネクタ本体６９の中心部を通して挿入側コネクタ本体６９の先端側に突出しており、先端部にはフランジ部１２７が設けられている。このフランジ部１２７の外周面にはねじ部１２８が形成され、このねじ部１２８にはキャップ１２９がねじ込み固定されている。キャップ１２９の外周面はＯリング１３０を介して挿入側コネクタ本体６９の嵌合孔１３１と密着されており、電気コネクタ固定支柱１２６によって挿入側コネクタ本体６９を支持すると同時に水密にシールされている。

20

【００６２】

前記光学コネクタ部材１２４は後方に向かって突出する円筒部１３２を有している。円筒部１３２の内周面の基端部及び先端部にはねじ部１３３、１３４が設けられている。基端部のねじ部１３３にはシャーシ１２２の内側からライトガイド固定枠１３５がねじ込み固定されており、光学コネクタ部材１２４を補強している。ライトガイド固定枠１３５には第１の実施形態と同様に、ライトガイド４６に嵌合するライトガイド嵌合部材７８が挿入され、ライトガイド嵌合部材７８には光学レンズ８０を装着したレンズ枠７９が嵌合されている。レンズ枠７９は光学コネクタ部材１２４のねじ部１３４にねじ込み固定され、さらにＯリング８３を介して光学コネクタ部材１２４に水密にシールされている。

30

【００６３】

次に、パワーユニット１２１側について説明すると、パワーユニット１２１の本体部を構成するシャーシ８５には電気コネクタ部材１２３及び光学コネクタ部材１２４と対応して電気コネクタ空洞部１３６と光学コネクタ空洞部１３７が隣り合って平行状態に設けられている。電気コネクタ空洞部１３６にはシャーシ８５の先端側には円筒状のケーシング９３が設けられている。ケーシング９３の内部には端子固定部材１３８が設けられている。端子固定部材１３８は円筒部１３９と、この円筒部１３９の先端開口を閉塞する閉塞部１４０が設けられている。

40

【００６４】

円筒部１３９の内周面には第１の実施形態と同様に電気接点部５９に対応して複数の電気端子部９７が配置されている。円筒部１３９の基端側には電気端子部９７と隣接して水分を除去する除去手段としての第１のワイパ１０１が設けられ、円筒部１３９の先端側で、閉塞部１４０の内面には第１のワイパ１０１による除去方向とは異なる方向からの水分の侵入を防止する防止手段としての第２のワイパ１０２が設けられている。

【００６５】

50

光学コネクタ空洞部 137 にはシャーシ 85 に対してライトガイド固定部材 109 が設けられている。シャーシ 85 の前端部には凹陷部 141 が設けられ、この凹陷部 141 には周壁部 142 とこの周壁部 142 に対して固定された抑え部材 143 によって環状溝 144 が形成されている。シャーシ 85 の先端側には第 1 の実施形態と同様に円筒状のライトガイド固定部材 109 が設けられている。ライトガイド固定部材 109 の基端部にはフランジ部 110 が設けられ、このフランジ部 110 は環状溝 144 に嵌合されている。環状溝 144 の内径はライトガイド固定部材 109 のフランジ部 110 の外径より大きく形成され、環状溝 144 に対してライトガイド固定部材 109 が径方向に移動自在であり、フランジ部 110 と抑え部材 143 との間にはリング 111 が介在されて水密にシールされている。

10

【0066】

次に、パワーユニット 121 の電気コネクタ空洞部 136 と光学コネクタ空洞部 137 に対して挿入部側本体 120 の電気コネクタ部材 123 と光学コネクタ部材 124 を挿入し、挿入部側本体 120 とパワーユニット 121 とを電氣的及び光学的に接続する作用について説明する。

【0067】

挿入部側本体 120 を把持して電気コネクタ部材 123 及び光学コネクタ部材 124 をパワーユニット 121 の電気コネクタ空洞部 136 及び光学コネクタ空洞部 137 に位置決めして挿入する。電気コネクタ部材 123 の挿入側コネクタ本体 69 の外周面における先端部が第 1 のワイパ 101 の摺接部 101b に接触し、挿入側コネクタ本体 69 を電気コネクタ空洞部 136 に深く挿入すると、挿入側コネクタ本体 69 の外周面を第 1 のワイパ 101 の摺接部 101b が摺動し、第 1 のワイパ 101 のくびれ部 101a を支点として電気コネクタ空洞部 136 の奥部方向に折曲した状態になり、その摺接部 101b が挿入側コネクタ本体 69 の外周面に摺接する。従って、第 1 の実施形態と同様に、挿入側コネクタ本体 69 の外周面に洗滌時に付着した水分が残っていても、水分は第 1 のワイパ 101 によって拭き取られ、電気接点部 59 の表面の水分も第 1 のワイパ 101 によって拭き取られる。

20

【0068】

挿入側コネクタ本体 69 を電気コネクタ空洞部 136 にさらに深く挿入すると、電気接点部 59 と電気端子部 97 とが対向し、両者は接触して挿入部側本体 120 とパワーユニット 121 とが電氣的に導通状態となる。また、挿入側コネクタ本体 69 の先端部における外周面が第 2 のワイパ 102 の摺接部 102b に摺接し、摺接部 102b は折曲されて挿入側コネクタ本体 69 の先端部における外周面に密着する。従って、挿入側コネクタ本体 69 の先端側に水分が付着していても、第 2 のワイパ 102 によって水分が電気接点部 59 の方向に流れることはない。

30

【0069】

このようにして挿入側コネクタ本体 69 が電気コネクタ空洞部 136 に挿入されると、挿入側コネクタ本体 69 のレンズ枠 79 がライトガイド嵌合部材 112 の嵌合筒 117 に嵌合し、光学レンズ 80 と光学レンズ 116 とが対向してパワーユニット 121 と挿入部側本体 120 とが光学的にも接続された状態となる。

40

【0070】

また、パワーユニット 121 側のシャーシ 85 の環状溝 92 に対してケーシング 93 のフランジ部 94 が径方向に移動自在であり、リング 95 によってシャーシ 85 に対してケーシング 93 のフランジ部 94 が弾性的に押圧されている。従って、ケーシング 93 が揺動自在に支持され、端子固定部材 96 は三次元的に揺動自在である。さらに、シャーシ 85 の環状溝 144 にはライトガイド固定部材 109 のフランジ部 110 が径方向に移動自在であり、リング 111 によってシャーシ 85 に対してライトガイド固定部材 109 が弾性的に押圧されてライトガイド固定部材 109 は三次元的に揺動自在である。

【0071】

従って、第 1 の実施形態と同様に、挿入側コネクタ本体 69 を電気コネクタ空洞部 13

50

6に挿入する際に、挿入側コネクタ本体69の挿入先端側が径方向に揺動しても、挿入側コネクタ本体69の揺動に伴って端子固定部材138が三次元的に揺動して追従することになる。また、光学コネクタ部材124の挿入先端側が径方向に揺動しても、光学コネクタ部材124の揺動に伴ってライトガイド固定部材109が三次元的に揺動して追従することになる。このため、挿入部側本体120を把持してパワーユニット121に接続する際に相互が径方向に位置ずれしても引っ掛かり感がなく円滑に挿入できる。そして、電気接点部59を電気端子部97に接触させて電氣的に導通させ、レンズ枠79をライトガイド嵌合部材112の嵌合筒117に嵌合して確実に光学的に接続することができる。

【0072】

図10及び図11は第3の実施形態を示し、第1の実施形態と同一構成部分は同一番号を付して説明を省略する。図10は挿入部側本体145及びパワーユニット146の非接続状態の縦断側面図、図11は挿入部側本体145とパワーユニット146との接続状態の縦断側面図である。

10

【0073】

挿入部側本体145のライトガイド固定部材77の先端部にはばね抑え部材147が設けられている。ライトガイド46にはレンズ枠148が嵌合固定され、このレンズ枠148には光学レンズ80が装着されている。レンズ枠148の背面とばね抑え部材147との間にはスプリング149が圧縮状態で介在されている。さらに、レンズ枠148には電気コネクタ固定部材81の内周面と隙間を介して嵌合されたフランジ部148aが設けられ、このフランジ部148aは電気コネクタ固定部材81のフランジ部81aと対向している。そして、フランジ部148aと81aとの間にはOリング150が介在され、水密にシールされている。従って、レンズ枠148は電気コネクタ固定部材81に対して径方向に移動自在であるとともに、スプリング149によって支持され、軸方向に移動自在である。

20

【0074】

次に、パワーユニット146について説明すると、ケーシング93の内部に設けられた端子固定部材96の先端部には円筒状のライトガイド固定基板104が固定されている。ライトガイド固定基板104の先端部には閉塞部151が設けられ、この閉塞部151の中心部には軸方向に貫通孔152が穿設され、この貫通孔152にはライトガイド115が装着されている。ライトガイド115の端面には平板ガラスからなる光学レンズ116が密着状態で設けられている。光学レンズ116はライトガイド嵌合部材112に設けられた嵌合筒117に固定されたレンズ枠118に装着されている。

30

【0075】

従って、ライトガイド115はライトガイド固定基板104に固定されているが、前記レンズ枠148はスプリング149によって弾性的に押圧されているため、挿入側コネクタ本体69のレンズ枠79をライトガイド嵌合部材112の嵌合筒117に嵌合する際の挿入方向の衝撃力をスプリング149によって吸収できると同時に光学レンズ80と116とを密着することができる。

【0076】

図12及び図13は第4の実施形態を示し、第1の実施形態と同一構成部分は同一番号を付して説明を省略する。図12は挿入部側本体153及びパワーユニット154の非接続状態の縦断側面図、図13は挿入部側本体153とパワーユニット154との接続状態の縦断側面図である。

40

【0077】

まず、挿入部側本体153側について説明すると、挿入部側本体153の嵌合部材63には円筒状の挿入側コネクタ本体155が設けられている。挿入側コネクタ本体155は電気絶縁材料によって形成され、この内周面には電気接点部59が配置されており、各電気接点部59のリード部59aは挿入側コネクタ本体155の隔壁を貫通して挿入側コネクタ本体155の内部まで延長している。

【0078】

50

挿入側コネクタ本体 155 の内部には弾性部材のパッキン 157 がパッキンつぶし部材 158 によって圧接状態に固定され、各電気接点部 59 のリード部 59a はパッキン 157 を貫通して水密に保たれている。さらに、挿入側コネクタ本体 155 の先端部には電気コネクタ保護部材 159 が設けられている。

【0079】

挿入側コネクタ本体 155 の基端部の中心部には軸方向に貫通孔 160 が設けられ、この貫通孔 160 にはパイプ状のライトガイド嵌合部材 161 が対向して設けられている。このライトガイド嵌合部材 161 の先端部はライトガイド固定部材 162 が嵌合されている。貫通孔 160 にはライトガイド固定部材 162 に対して固定されたレンズ枠 163 が設けられ、レンズ枠 163 には光学レンズ 164 が装着されている。レンズ枠 163 の外周面にはリング 165 が装着され、貫通孔 160 との間が水密にシールされている。

10

【0080】

次に、パワーユニット 154 側について説明すると、パワーユニット 154 の本体部を構成するアルミニウム等の剛性を有する金属部材からなるシャーシ 166 が設けられている。シャーシ 166 は挿入側コネクタ本体 155 が挿入される円筒状の空洞部 166a が設けられている。空洞部 166a の内周面には嵌合受け部 87 が設けられ、この嵌合受け部 87 には金属弾性部材からなる複数のフィンガ 88 が周方向に配設されている。

【0081】

シャーシ 166 の先端部には円筒状のケーシング 93 が設けられている。ケーシング 93 の内側には端子固定部材 167 が固定リング 167a によって固定されている。端子固定部材 167 は外周壁部 168 と内周壁部 169 及び閉塞壁部 170 を有し、前記挿入側コネクタ本体 155 が挿入される円環状の嵌合部 171 が設けられている。端子固定部材 167 の内周壁部 169 における外周面には電気接点部 59 に対応して複数の電気端子部 97 が配置されている。端子固定部材 167 の閉塞壁部 170 には弾性部材のパッキン 172 がパッキンつぶし部材 173 によって圧接状態に固定され、各電気端子部 97 のリード部 97a はパッキン 172 を貫通して水密に保たれている。さらに、パッキンつぶし部材 173 にはパッキン抑え部材 174 が設けられ、このパッキン抑え部材 174 は端子固定部材 167 に固定された電気コネクタ保護部材 175 に対してねじ込み固定されている。

20

【0082】

端子固定部材 167 の内周壁部 169 における外周面には電気端子部 97 と隣接して水分を除去する除去手段としての第 1 のワイパ 176 と、閉塞壁部 170 側には電気端子部 97 と隣接して第 1 のワイパ 176 による除去方向とは異なる方向からの水分の侵入を防止する防止手段としての第 2 のワイパ 177 が設けられている。

30

【0083】

第 1 及び第 2 のワイパ 176、177 は、内周壁部 169 の外周面に沿って円環状のゴム部材によって形成され、外径が前記挿入側コネクタ本体 155 の内径より僅かに大径に形成され、パワーユニット 154 の端子固定部材 167 に対する挿入側コネクタ本体 155 の挿脱に伴って挿入側コネクタ本体 155 の内周面と摺接するように形成されている。

【0084】

このように、端子固定部材 167 には電気端子部 97 を挟んで第 1 のワイパ 176 と第 2 のワイパ 177 とが設けられ、パワーユニット 154 の端子固定部材 167 に対する挿入側コネクタ本体 155 の挿脱に伴って端子固定部材 167 の表面に付着している水分を第 1 のワイパ 176 によって除去できるようになっている。さらに、端子固定部材 167 の先端側に付着している水分が重力によって電気接点部 59 の方向に流れるのを第 2 のワイパ 177 によって阻止するように構成されている。

40

【0085】

また、電気コネクタ保護部材 175 の内部には環状凹部 178 が設けられている。この環状凹部 178 にはライトガイド嵌合部材 179 のフランジ部 179a が嵌合されている。フランジ部 179a の外径は環状凹部 178 の内径より僅かに小径であり、外周面に隙

50

間が形成されている。フランジ部 179 a にはばね抑え部材 180 が接合され、ばね抑え部材 180 とパッキン抑え部材 174 との間にはスプリング 181 が圧縮状態に介在されている。ライトガイド嵌合部材 179 の中心部には軸方向に貫通孔 182 が設けられ、この貫通孔 182 の内部にはライトガイド 115 が装着されている。ライトガイド 115 の端面には平板ガラスからなる光学レンズ 116 が密着状態で設けられ、この光学レンズ 116 はレンズ枠 118 に装着されている。従って、ライトガイド嵌合部材 179 は電気コネクタ保護部材 175 に対して軸方向に移動自在である。

【0086】

次に、パワーユニット 154 の嵌合部 171 に挿入部側本体 153 の挿入側コネクタ本体 155 を挿入し、挿入部側本体 153 とパワーユニット 154 とを電氣的及び光学的に接続する作用について説明する。

10

【0087】

挿入部側本体 153 を把持して挿入側コネクタ本体 155 を嵌合部 171 に挿入すると、挿入側コネクタ本体 155 の外周面はフィンガ 88 に接触するため、挿入側コネクタ本体 155 は嵌合部 171 の中心部方向に弾性的に位置決めされる。挿入側コネクタ本体 155 が嵌合部 171 に挿入されると、まず挿入側コネクタ本体 155 の内周面における先端部が第 1 のワイパ 176 に接触する。

【0088】

挿入側コネクタ本体 155 を嵌合部 171 に深く挿入すると、挿入側コネクタ本体 155 の内周面を第 1 のワイパ 176 が摺動し、挿入側コネクタ本体 155 の内周面に洗滌時に付着した水分が残っていても、水分は第 1 のワイパ 176 によって拭き取られる。挿入側コネクタ本体 155 の内周面には複数の電気接点部 59 が設けられ、この電気接点部 59 の表面にも水分が付着していることがあるが、その水分も第 1 のワイパ 176 によって拭き取られる。

20

【0089】

挿入側コネクタ本体 155 をさらに深く挿入すると、電気接点部 59 と電気端子部 97 とが対向し、両者は接触して挿入部側本体 153 とパワーユニット 154 とが電氣的に導通状態となる。挿入側コネクタ本体 155 を嵌合部 171 の最も奥部に挿入すると、挿入側コネクタ本体 155 の先端部における内周面が第 2 のワイパ 177 に摺接し、挿入側コネクタ本体 155 の先端部における内周面に密着する。すなわち、挿入側コネクタ本体 155 の先端側間を第 2 のワイパ 177 が遮断した状態となる。従って、挿入側コネクタ本体 155 の先端側に水分が付着していても、第 2 のワイパ 177 によって水分が電気接点部 59 の方向に流れることはない。つまり、内視鏡 21 の使用状態においては、挿入部側本体 153 が下側で縦方向になり、挿入側コネクタ本体 155 の先端側の水分が重力によって電気接点部 59 の方向に流れることがあるが、第 2 のワイパ 177 を設けることによって電気接点部 59 の方向に流れようとする水分を遮断できる。

30

【0090】

このようにして挿入側コネクタ本体 155 が嵌合部 171 の最も奥部に挿入されると、挿入側コネクタ本体 155 の光学レンズ 164 と光学レンズ 116 とが対向してパワーユニット 154 と挿入部側本体 153 とが光学的にも接続された状態となる。

40

【0091】

また、パワーユニット 51 側のシャーシ 166 の環状溝 92 に対してケーシング 93 のフランジ部 94 が径方向に移動自在であり、Oリング 95 によってシャーシ 85 に対してケーシング 93 のフランジ部 94 が弾性的に押圧されている。従って、ケーシング 93 が揺動自在に支持され、端子固定部材 96 は三次元的に揺動自在である。さらに、ライトガイド嵌合部材 179 のフランジ部 179 a が電気コネクタ保護部材 175 に対して径方向に移動自在であり、スプリング 181 によって弾性的に押圧されて支持されているためライトガイド嵌合部材 179 は三次元的に揺動自在である。

【0092】

従って、挿入側コネクタ本体 155 を嵌合部 171 に挿入する際に、挿入側コネクタ本

50

体 1 5 5 に挿入先端側が径方向に揺動しても、挿入側コネクタ本体 1 5 5 の揺動に伴って端子固定部材 1 6 7 及びライトガイド嵌合部材 1 7 9 が三次元的に揺動して追従することになる。このため、挿入部側本体 1 5 3 を把持して挿入側コネクタ本体 1 5 5 を嵌合部 1 7 1 に挿入する際に挿入側コネクタ本体 1 5 5 に挿入先端側が径方向に位置ずれしても引っ掛かり感がなく円滑に挿入できる。

【0093】

さらに、ライトガイド嵌合部材 1 7 9 はスプリング 1 8 1 によって電気コネクタ保護部材 1 7 5 のフランジ部 1 7 5 a に弾性的に押圧されている。従って、挿入側コネクタ本体 1 5 5 を嵌合部 1 7 1 に嵌合する際の挿入方向の衝撃力をスプリング 1 8 1 によって吸収することができると同時に光学レンズ 1 6 4 と 1 1 6 とを密着することができる。

10

【0094】

なお、本発明は、前記実施形態そのままに限定されるものではなく、実施段階ではその要旨を逸脱しない範囲で構成要素を変形して具体化できる。また、前記実施形態に開示されている複数の構成要素の適宜な組合せにより種々の発明を形成できる。例えば、実施形態に示される全構成要素から幾つかの構成要素を削除してもよい。さらに、異なる実施形態に亘る構成要素を適宜組み合わせてもよい。

【図面の簡単な説明】

【0095】

【図 1】本発明の第 1 の実施形態に係る医療装置を示す概略的な斜視図。

【図 2】同実施形態に係る医療装置を示す概略的なブロック図。

20

【図 3】同実施形態に係る内視鏡の挿入部側本体とパワーユニットの斜視図。

【図 4】同実施形態に係る医療装置の挿入部側本体とパワーユニットとの非接続状態の縦断側面図。

【図 5】同接続状態の縦断側面図。

【図 6】同実施形態に係る医療装置の挿入部側本体とパワーユニットとの非接続状態を示し、パワーユニットのみを断面した側面図。

【図 7】同接続状態を示し、パワーユニットのみを断面した側面図。

【図 8】同実施形態に係る医療装置のフレキシブルコネクタを示し、(a) (b) は斜視図。

【図 9】本発明の第 2 の実施形態に係る医療装置の挿入部側本体とパワーユニットとの非接続状態の縦断側面図。

30

【図 10】本発明の第 3 の実施形態に係る医療装置の挿入部側本体とパワーユニットとの非接続状態の縦断側面図。

【図 11】同接続状態の縦断側面図。

【図 12】本発明の第 4 の実施形態に係る医療装置の挿入部側本体とパワーユニットとの非接続状態の縦断側面図。

【図 13】同接続状態の縦断側面図。

【符号の説明】

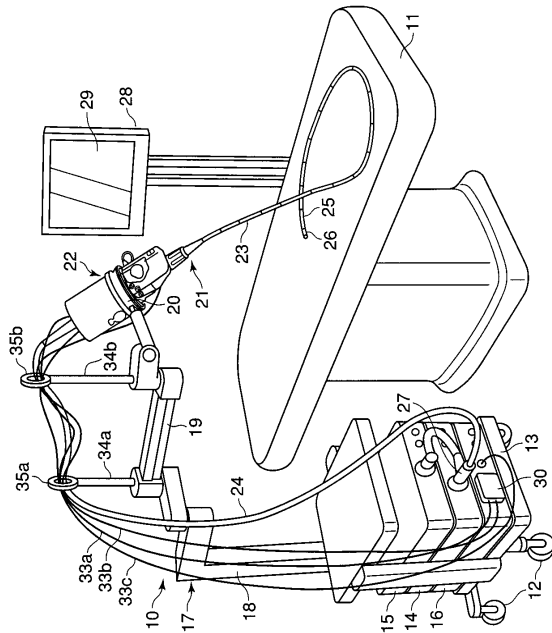
【0096】

50…挿入部側本体（第 2 のコネクタ部）、51…パワーユニット（第 1 のコネクタ部）、59…電気接点部、101…第 1 のワイパ（除去手段）、102…第 2 のワイパ（防止手段）

40

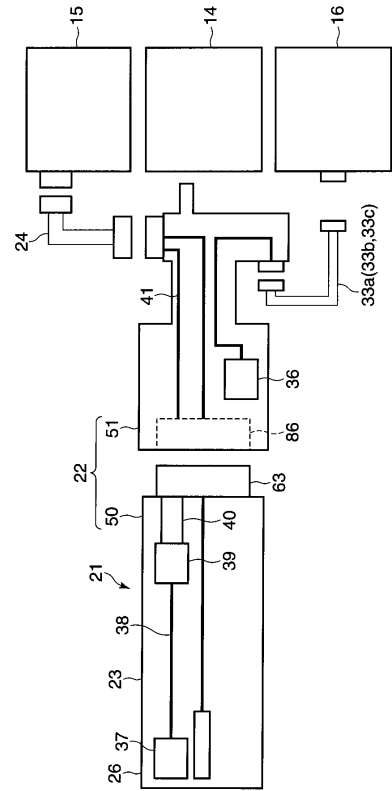
【図 1】

図 1



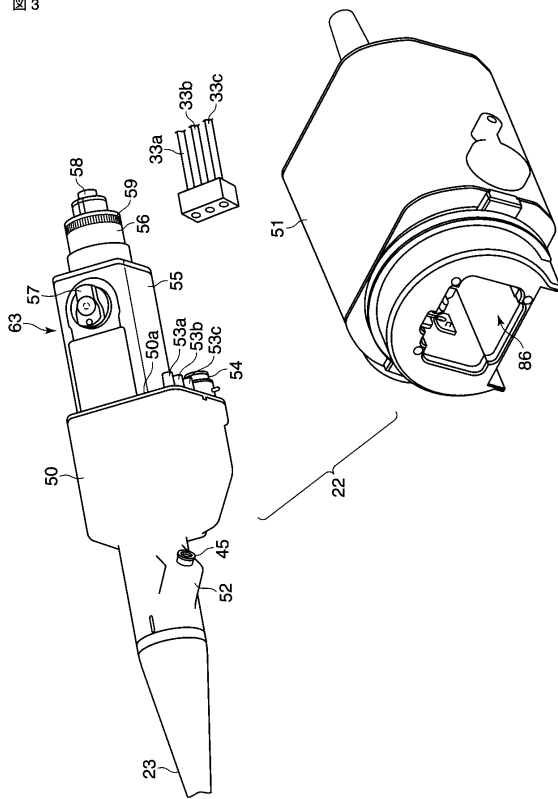
【図 2】

図 2



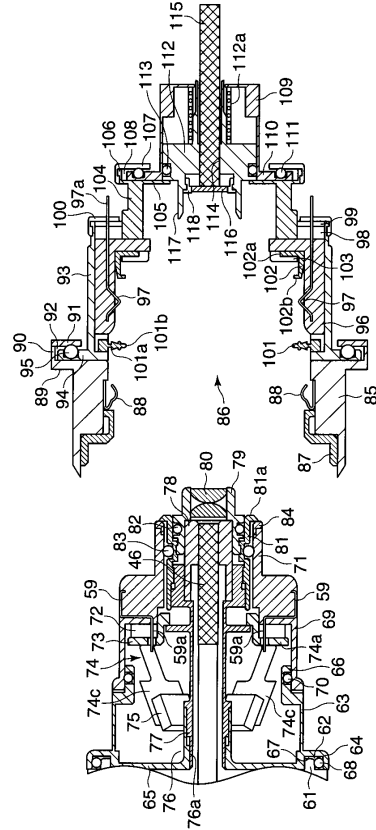
【図 3】

図 3

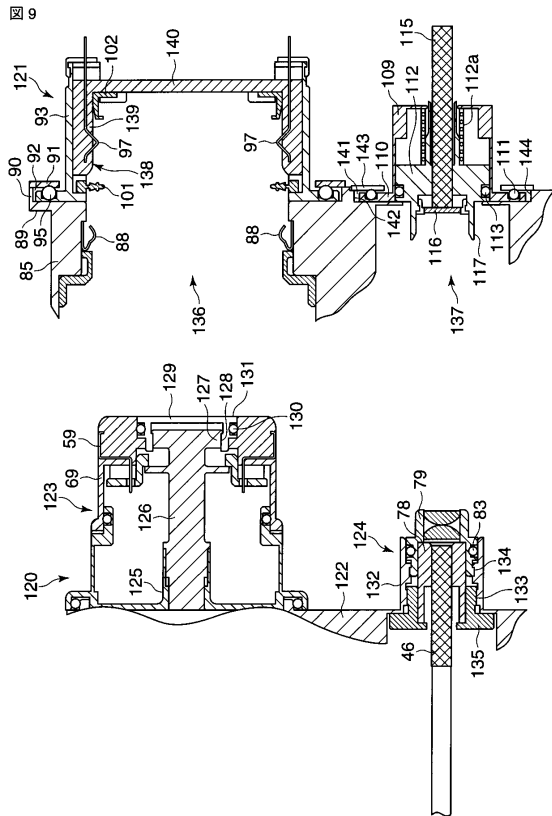


【図 4】

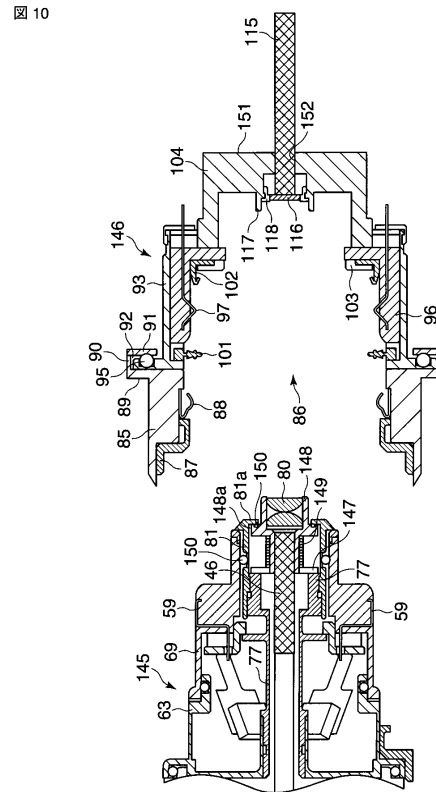
図 4



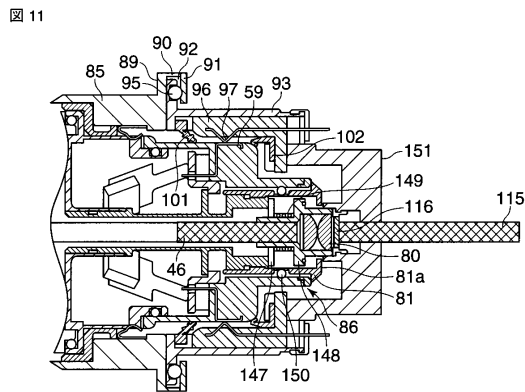
【図 9】



【図 10】

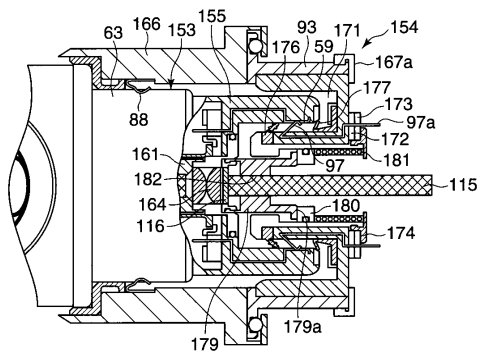


【図 11】



【図 13】

図 13



フロントページの続き

- (72)発明者 宮城 正明
東京都渋谷区幡ヶ谷2丁目43番2号 オリジナルメディカルシステムズ株式会社内
- (72)発明者 澤井 貴司
東京都渋谷区幡ヶ谷2丁目43番2号 オリジナルメディカルシステムズ株式会社内

審査官 原 俊文

- (56)参考文献 特開平06-133919 (JP, A)
特開平06-250103 (JP, A)
特開2001-161642 (JP, A)
特開2000-340290 (JP, A)

- (58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
- | | |
|--------|-------------|
| A 61 B | 1/00-1/32 |
| G 02 B | 23/24-23/26 |

专利名称(译)	医疗器械		
公开(公告)号	JP5191164B2	公开(公告)日	2013-04-24
申请号	JP2007123854	申请日	2007-05-08
[标]申请(专利权)人(译)	奥林巴斯医疗株式会社		
申请(专利权)人(译)	オリンパスメディカルシステムズ株式会社		
当前申请(专利权)人(译)	オリンパスメディカルシステムズ株式会社		
[标]发明人	宮城 正明 澤井 貴司		
发明人	宮城 正明 澤井 貴司		
IPC分类号	A61B1/06 G02B23/24		
CPC分类号	A61B1/00114 A61B1/00124 A61B1/00126 A61B1/00128 A61B1/015 A61B1/05		
FI分类号	A61B1/06.D G02B23/24.A A61B1/00.300.A A61B1/00.710 A61B1/00.712 A61B1/00.716 A61B1/06.520		
F-TERM分类号	2H040/BA24 2H040/CA04 2H040/CA08 2H040/DA11 2H040/DA21 4C061/FF11 4C061/JJ01 4C061/JJ13 4C161/FF11 4C161/JJ01 4C161/JJ13		
代理人(译)	中村 诚		
其他公开文献	JP2008278970A		
外部链接	Espacenet		

摘要(译)

本发明的目的是即使水分附着到电接触部分，在连接连接器部分的过程中除去水分，并且水分不可能再次粘附到电接触部分，并且可以提高可靠性。提供医疗设备。作为第二连接器单元的插入单元侧体（50）包括作为第一连接器单元的电源单元（51）和连接到电源单元（51）的电接触单元（59），电源单元（51）和插入单元侧体（50）并且第一擦拭器101作为去除装置，用于沿预定方向去除电接触部分59上的水分，以及来自第一擦拭器101的与去除方向不同的方向的水分。它具有第二擦拭器102作为防入侵装置。[选图]图4

【图3】

